

## 平成 27 年度 第 1 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録

開催日時 平成 27 年 5 月 30 日（土） 午後 7 時～9 時

開催場所 笠間市役所 教育棟 2-1. 2-2 会議室

参加者 18 人

### 《フリートーク（意見交換）》

- 1 誰でも参加できるイベントの開催について
- 2 男女の出会いの創出について
- 3 子育て世代に対する支援について
- 4 北川根ふれあい広場の遊具・児童館の建設について
- 5 友部小学校の防災対策について
- 6 農業による雇用創出について
- 7 かさま陶芸の里ハーフマラソン大会開催中におけるイベントについて
- 8 地元雇用対策事業について
- 9 移住について
- 10 婚活・芸術の村について
- 11 郷土愛の醸成について
- 12 子育て支援について

### 《内容》

- 1 誰でも参加できるイベントの開催について

#### 【意見等】

私はあらゆる人の協力参画を促すことが重要だと思っている。キーポイントは、高齢者が参加できるかであるが、ハロウィンをやってはどうか。

#### 【回答】

各世代が参加でき、日本で行っていないようなイベントを行って、地域おこしをしてはどうかと、その一つにハロウィンがあるのだろうということと理解しました。

笠間は県内でもイベントの数はトップクラスの開催数を誇っています。ただ、イベントの中には、若干マンネリ化してきたイベントもありますので、その辺は、工夫はしていきたいと思っています。

- 2 男女の出会いの創出について

#### 【意見等】

女性の方にも、男性の方にも、お互いに出会いの場がないと感じる。笠間市はイベント

をたくさん行っていると思うが、そういう場を利用しながら、気軽に参加できるような出会いの場を作っていければと思う。

「私は苦手」という話もよく聞くので、市の方でサポートしてあげれば、より良い出会いが生まれてくるのではないかと思います。ぜひ、イベントを通して出会いの創出を図ってほしい。

#### 【回答】

市内では、ボランティア団体に婚活イベントを行っていただいています。それには市から補助金を出しています。婚活イベントもこの頃は参加することが目的になってしまい、出会いを求めるといった目的が薄れてきたような感覚を持っています。もう少し工夫が必要になってくると思います。

デートの機会を設ける取り組みを行う企業も現れてきています。企業と連携を図り、出会い創出から結婚に結びつけるような形に持っていきたいと思っています。

もう一つは、仲人さんです。市でも募集して、10人ぐらいの方を婚活サポーターとしてお願いしました。今年から取り組んで行く予定になっています。

出会いの場がないという意見もありますので、婚活イベントは、市の方も、もっと踏み込んで行っていく必要があると思っています。

### 3 子育て世代に対する支援について

#### 【意見等】

若年層が、減少してきているのは、そもそも国の問題、教育の問題です。世の中は高学歴社会でレールに乗らないといい会社に就職できない。そのために幼稚園から塾に行かせている。そうするとお金がかかる。大学を卒業するまでに何千万円という話です。どうしても経済的な面の支援ということで、国を挙げて見直すような方法をとれば、安心して子育てもできるのではないかと。そうなれば自然と子どもは増加すると思う。

#### 【回答】

幼稚園の無償化というような議論も国でなされています。消費税を上げて無償化を実施するという話もありましたが、消費税の増税スケジュールが伸びたため、無償化の財源が確保できないということで、先延ばしになってしまったようです。

小学生を含めて、どの部分を経済的に支援していくのかというのは、いろいろと議論はあると思います。子どもの教育にお金がかかることに対して、何らかの支援をしていくということは、私も必要だと思っています。それも子育て支援の一つと考えています。

### 4 北川根ふれあい広場の遊具・児童館の建設について

#### 【意見等】

つくば市に用事があって、並木の公園に行った。水の流れがあって、そこにはベビーカーで子どもを乗せたお母さんがいて、更に小さい子どもが水で遊んでいる。遠くで見守っているというような感じで3月下旬でしたが、子ども同士が水に入って腰まで濡れても、平気でお母さんは見ているというような状況で、こういうところから、たくましさや、友達関係とかが育ってくるのかとしみじみと感じた。

ふれあい広場でも水が流れるところがある。以前は水が流れていたが今は流れていないので、水を流してもらいたいと感じる。また、子どもたちが集まれるような、ふれあい広場にしていきたいと思う。キッズ館ができたが、北川根の方からすると遠さを感じる。遊具も塗装するとか、更に子どもたちが喜ぶような遊具を付けるとか充実してほしい。

また、本が置いてある建物が一つほしい。就学前の子どもたちが自由に集まって、わいわい遊べるような場所があるといい。

#### 【回答】

地域の子どもたちが遊べるスペースなり遊具や施設などが必要だというご意見かと思えます。

友部地区は、児童館（キッズ館）があって、笠間地区と岩間地区は、子育て支援センターという位置付けですが、いつということではないですが、子育て支援センターではなくて児童館があった方がよいという意見はありますので、今後検討していく必要性はありと私も思っています。

遊具も、老朽化したものは、取り壊しとか再整備を考えていきたいと思っています。今年も何か所かは取り壊す予定があるのですが、危険なものについては、整理をしていきたいと思っています。児童館的な施設が必要ということは、ご意見としていただきます。

### 5 友部小学校の防災対策について

#### 【意見等】

友部小ですが、昨年の台風で大雨が降ったときに、洪水になった話を聞いた。友部小は避難場所であり、いざ避難というときに果たして対応できるのかという危機感がある。これから梅雨の時期に入るが、防災対策をし、安全な状況にしてほしい。

#### 【回答】

友部小については、入口の嵩上げをしました。ただ、今のゲリラ豪雨が1時間当たりにもどの程度雨が降るかによって変わってきます。具体的な対策となると、今のところは嵩上げが一つの対応と思っています。

### 6 農業による雇用創出について

#### 【意見等】

遊んでいる農地がある。それを上手く利用し、法人化して雇用をつなげる方法をとっていただければ、多少なりとも若者の企業採用という形が図れる。特産物の販売もできる。そうなれば魅力が出てきて、転入者も来るのではないか。

**【回答】**

例えば、大学に行って卒業後に戻ってくるには、一つには雇用の場が必要です。雇用の場というと、企業誘致もそうですが、農業を産業として育成して、雇用の場にしていくということも必要だと思います。資料に農業公社を設立したことが載っていると思います。栗、焼物も一つの地場産業なので、ここは積極的にアピールしていますが、更にアピールしていきたいと思っています。

## 7 かさま陶芸の里ハーフマラソン大会開催中におけるイベントについて

**【意見等】**

かさま陶芸の里ハーフマラソン大会は10周年になる。大きなイベントなので、人を集めた時に笠間市をPRする方法を取っていただければありがたい。

**【回答】**

今年のマラソン大会は12月13日に予定しています。合併10周年記念事業の冠事業として実施します。笠間市出身で箱根駅伝、世界選手権に出場した人などが何人かいるので、ゲストに招いて子どもたち対象の走り方教室などの開催を予定しています。

マラソン大会以外のイベントを街の中心で行っていくというのは、会場・スタッフの問題があります。マラソン大会だけでもボランティアの方が250名ぐらい出ていると思います。せっかくのマラソン大会なのでマラソンに関するようなものを広げていくということは可能だと思いますので検討していきたいと思っています。

## 8 地元雇用対策事業について

**【意見等】**

地方版総合戦略の一つ、「ものづくり」の中に地元雇用対策事業がありますが、具体的にどのようなものがあるのか教えていただきたい。

**【回答】**

今、取り組んでいるのは企業誘致です。工業団地として企業誘致できるのは、茨城中央工業団地と排水工事を行っている畜産試験場跡地です。

県と一緒に企業誘致していくことが、笠間市の雇用確保につながるということで、市でも最大5億円を進出企業に支援する制度を設けて企業誘致をしています。

茨城中央工業団地に、その取組みとして工場の立地が決まりまして6月に起工式を行う

予定です。雇用は当初30人、最終的には50人ぐらいの雇用が創出されるということです。畜産試験場跡地も排水整備工事が今年度で終わりますので、同時進行で企業誘致に取り組んでいます。何社か見に来てくれているところではありますが、まだ決まってないということで、今後も積極的に取り組んで行きたいと思います。

## 9 移住について

### 【意見等】

笠間市の魅力は何だろうと思ったとき、やはり自然が多いことだと思う。先日もキャンプ雑誌で住みたい町100選に選ばれた。田舎を大々的にアピールして、セカンドライフで定年した人が来てくれるような街でいいと思う。若い人に農業をと言っても、まず無理で、それならば、動ける60歳代に農業をしてもらうような取組みを行うべき。

東京から1時間ということでもIT企業の誘致に力を入れてみても面白いと思う。

考え方を変えて、若い人を残したいのであれば、芸術の街、職人の街として若い芸術家たちが住みやすいまちづくりだし、移住する人が集まるまちにしていくと、また違う魅力が生まれてくると思う。空き家問題も解決していくかもしれない。

### 【回答】

笠間では新規就農者はいないように感じますが、農家の跡取りが、農家として継いでいます。若い担い手が30人ぐらいおり、菊作りをしている人たちもいます。

企業誘致を行うことも必要ですが、農業に取り組んでいる若い人たちを育てていくということも必要ですし、外部から笠間で農業をやりたいと入ってきている人もいます。この辺も移住なり、農業による定住化は必要だと思います。また、焼き物についても同じです。今度、窯業指導所が陶芸大学校になります。学生は、おそらく地元の人ほとんどいないと思います。学生が卒業後に笠間で独立していけるような支援体制は構築していかなければと思っており、県と連携して進めています。

アウトドアの雑誌BE-PALに、自然派が暮らしたい町ベスト100として笠間が選ばれ、関東地区で10位ということで掲載されました。山並みの美しさとか景観の美しさとかは、笠間独特のものを持っています。例えば、佐白山から見た風景、愛宕山から見た風景、北山公園の風景、そういうものは生かしていきたいと思っています。

若い人も必要だけど、シニアも必要というのは、私もそういう思いは持っていて、元気なシニア世代を笠間に呼び込む取組みも計画しています。

## 10 婚活・芸術の村について

### 【意見等】

東京の方からお客様が見えて、笠間に住みたいと独身女性から話が出たりする。都内の方からすると笠間にお嫁に来たいという女性も大変多いという流れがあるので、婚活は水

戸という方向ではなく、都内の方にPRしてみてもどうか。

ものづくりの街でもあるので、生活をしたいという若い女性が大変多いという声は聞いている。受入れできる体制を作れば、都内で住むよりも、地方で住みたい、地方で住むのなら、芸術の街笠間がいいという流れになるのかと思います。

笠間にある芸術村ですが、空き家がたくさんある。修復して、受入れできるような状況にすると、ものづくりをする人たちが集まると思います。販売店をやっていると中高年、農業をやりたいという方の声も届くので、笠間もまだまだ捨てたものじゃない気がします。

#### 【回答】

笠間にお嫁に来たい、住みたいという方がいましたら、どんどんご紹介いただければと思います。他の自治体も空き家バンク制度などを行っていて、笠間でも、買いたい、貸してもらいたいという話は80件近く来ています。ただ、貸し手と借り手、売り手と買い手など、うまくマッチングしない場合があります。空き家の情報などがありましたら、市の方に提供していただければと思います。

芸術の村に関しては、確かにほとんど使われていないです。権利関係などを調べてみます。芸術の村の中で土地を持っている人で、手放したいなどの人がいたら空き家バンクではなく、空き地バンクで市が紹介できるか検討して行きたいと思います。

## 11 郷土愛の醸成について

#### 【意見等】

私は子育て世代で、予定では2人で子どもは止めようと思ったのですが、3人の子どもを授かることができました。しかし教育面での費用がかさんでいる。

私は、東京に1回転出して、その後戻ってきた。なぜ戻ってきたかというところが重要だと思うが、旧友部地区が自分のふるさとだと思っていて、東京に住んで東京の雰囲気嫌で戻ってきた。

従って、教育費など様々な問題は転出防止にはつながらないのではないと思う。若い世代で自分が住んでいる土地がふるさとだと認識している人は、少ないような感じがする。

#### 【回答】

いわゆる郷土愛、ふるさと愛、そういうものをしっかりと植えつけるような教育を地域で支援したりするなど行動を起こしていくことが必要ではないかと思います。学校教育は学力向上も必要ですが、一方で郷土愛を育てるのは、教育委員会の方ですすでに取り組んでいます。さらにしっかりと進めていきたいと思っています。それがいわゆるUターンにつながってくるということだと思います。

## 12 子育て支援について

### 【意見等】

子どもができれば当然のように金がかかる。笠間市では出産に応じた手当は出していますか。出産手当が100万円という市町村もある。また、ランドセルを支給している市町村もある。どうしても子ども同士でランドセルの見せ合いになる。できれば統一した方がいいのではないかと思います。

### 【回答】

子育て支援の一環として、例えば、第1子から出産のたびに手当を支給したり、第3子だけ支給する自治体が出てきました。最近では3人、4人生まれるときは100万円、企業によっては社員にそのような支援をしているというのもあります。ランドセルではありませんが、モノで支援していくやり方をしているケースもあります。笠間はマル福制度が他の自治体から比べ充実している部分があります。何で捉えるかによって、見方が変わってくるのでご理解いただきたいと思います。

ランドセルは桜川市、石岡市で行っています。必要かどうかというところ難しいところですが、私の考え方は現金支給という形はどうかと思います。子育てについて、いろいろな意見がありましたが、教育を含めて、どこに重点的に支援をしていくかというのは難しいところがあります。ランドセルを支給することによって、統一的なものの効果もあります。ランドセル代が負担になっているので、ランドセルを支給するのか、それとも、例えば体操服を支給するのか、その辺は支援の仕方です。ランドセルが必要という意見はわかります。いずれにせよ、子どもの教育に係る支援は充実していく必要があると思っています。参考にしながら検討していきたいと思っています。